

. The Consumer Front

対立点	愛煙家グループ	嫌煙家グループ
(1964年の公衆衛生局長報告以来の) 喫煙に関連した死亡	あらゆる原因で死亡した人は、喫煙に関連した死亡者の6倍である。すべての人々にとって、死亡率は結局は100%。	アメリカに住む1000万人の人々が、喫煙に関連した原因によって死亡している。そのうち肺癌だけで200万人が亡くなっている。
アメリカと外国の喫煙との比較	諸外国に比べれば喫煙はそれほど広がっていない。全世界を見ると、データが入手できる87カ国のうち、アメリカ合衆国は喫煙率が78位になる。	毎年150万人のアメリカ人が新たにタバコに依存するようになる。12歳から17歳までの若者のうち20%が喫煙者。成人の喫煙者のうち82%が、18歳になる前に最初のシガレットを吸っている。1991年から94年の間に、この国では8年生の喫煙率が30%も上昇。
発展途上国の喫煙率について	相関関係は因果関係ではない。喫煙率の低下だけで貧困国が経済的楽園になると主張する人がいるとは思えない。衛生的な上水道を確保したりマラリアによる死亡と戦ったりすることが、先進国の嫌煙の流行を扇動するよりも優先されるべきである。	10秒毎に、タバコを吸ったことが原因で一人の人間が死んでいく。1990年代初頭には、タバコ製品は年間300万人の死亡の原因になったと推定される。そして死傷者数は顕著に増加しつつある。現在の喫煙に関する傾向が逆転させられない限り、この数値は2020年代か2030年代までに年間1000万人となると予想される。死亡者数の70%は発展途上国で生じるだろう。

<p>タバコ消費と健康被害について</p>	<p>相関は因果関係を証明しない。病気と死亡のトレンドは、実に様々な要因の影響を受ける。喫煙は、数多く、複雑で、未知の諸要因のうちの一つに過ぎない。</p> <p>非喫煙者よりも喫煙者の方が罹患率が「低い」(相対的リスク・レシオが1よりも「小さい」) 病気が数多くある。嫌煙家の方法にしたがえば、これらのケースでは、喫煙「しない」ことが健康にとって危険だということになる。</p> <p>喫煙と健康に関する統計は根本的にミスリーディングで歪められていて、健康リスクを極度に誇張している。図表 2-1 の統計すべてが、「相対的」リスクというタームで表現されていて、これらは、喫煙に由来する病気や死亡の絶対的リスクを覆い隠している。</p> <p>肺癌による死亡は、アメリカ合衆国における、毎年すべての原因による死亡のうちの、7%にも達しない。</p> <p>喫煙はどれほど死亡や病気をもたらすかについて、嫌煙団体が宣伝している、人為的に水増しされた数値の半分がそれ未満の規模だと計算している。</p>	<p>図表 2-1 ;</p> <p>男性の喫煙者；非喫煙者に比べて肺癌に 22 倍、肺気腫やその他の肺疾患については 9.6 倍、咽喉や咽頭の癌については 7 倍から 10 倍かかりやすい。</p> <p>女性の喫煙者；喫煙しない女性に比べて肺気腫に 10.4 倍、咽頭癌に 17.7 倍、肺癌に 11.9 倍かかりやすい。</p> <p>図表 2-2 ;</p> <p>35 歳から 64 歳までの男性がかかった冠状動脈性心臓病の 45%は喫煙に起因する。男性の肺癌の 90%、女性でも 79% は喫煙に起因するものである。</p> <p>明らかに、喫煙は、人々が従事する活動の中で飛び抜けて致命的な行動である。タバコは、「ゲートウェイ・ドラッグ」であり、喫煙者が 4 倍もアルコールを乱用したり不法なドラッグを使用したりしやすい(ティーン・エージャーについては 8-11 倍)。</p>
<p>喫煙と教育</p>	<p>タバコを吸う私の友人の中には博士だっている。</p>	<p>喫煙は教育と「負の」相関にある。統計は、より高い教育を受けた人はよりタバコを吸わなくなることを示している。</p>

<p>人々がタバコ製品を消費する・喫煙する動機</p>	<p>社会学的な要因； 社会的なバリアを取り払う手段、特定集団における既存のメンバー間の関係を再強化し、再確認する一つの手段、社会関係を「結んだ」り補強することを促す。 心理学的基礎； 退屈と戦う方法、感情的なストレスと不安を和らげる。味や、感触や経験を楽しむため。 タバコは世界中で、様々な社会的・文化的コンテキストのもとで吸われている。</p>	<p>人々は、タバコに含まれるニコチンに依存させられているからタバコを吸う。 タバコ消費とは致命的な依存症であり、この世のいかなる疑似科学的、心理社会学的合理化によってもこれを隠蔽することはできない。</p>	<p>経済理論によれば、人々は喫煙が彼らの効用を最大化するからタバコを吸う。 タバコを吸う人はその方が幸福だからそうするのであって、吸わない人は喫煙がほとんど、あるいはまったく効用を与えないから吸わない。彼らの行動が選好を明らかにする。</p>
<p>合理的な選択</p>	<p>タバコを吸うという選択は、知性ある何百万という人々による合理的な決定。</p>	<p>タバコ産業が喫煙の危険について人々を惑わせ、ミスリードする詐欺的なマーケティング・キャンペーンを数十年にわたって行ってきたときに、どうすれば消費者の行動が「合理的」などと特徴づけられるのか？ 喫煙の危険について適切に情報が与えられるとき、人々は合理的に喫煙「しない」ことを選択する。</p>	<p>経済理論は、人々が合理的に行動すると仮定。あらゆる人間は、彼/彼女自身の嗜好と選好を持つ。いかなる2人の人間も正確に同じということはない。その結果、効用のこの本質的な感覚は、異なる諸個人の間ではそれぞれ異なる。双方のグループが、自身の嗜好と選好にしたがって合理的にふるまっている。</p>
<p>依存</p>	<p>「合理的な依存」の理論を定式化した経済学者たちもいる。この理論は、長期的に見れば依存的な行動さえも合理的で、自発的な効用最大化を意味することを示している。 喫煙者は実際には、甲高い嫌煙プロパガンダの結果として、タバコに関連した病気にかかる可能性を過大評価していて、真のリスクをより正確に考慮すれば、さらに8%多くの人々がタバコを吸うだろう。</p>	<p>喫煙は依存であり、自由で合理的な選択ではない。人々は喫煙することを選ぶことはできるが、依存症になることを選ぶことはできない。 喫煙者が合理的に振る舞っているという理論と、それを支える証拠はまったく信用できない。</p>	

<p>マーケティング・キャンペーン</p>	<p>広告が消費者を、その最良の利益に反するよう行動させるようになら洗脳するというのは、古くさい反資本主義的神話。広告は、この点でごくわずかな影響しか与えない。</p>	<p>もし広告に効果がないならば、これらの企業の経営者たちは、非生産的な広告活動に何十億ドルという株主の資金を無駄遣いしているかどで有罪となるだろう。実際には、そんなことを経営者はしていない。</p>	<p>もしも人々が正しくない、あるいは誤った情報に基づいて行動したならば、その行動が合理的に厚生を改善するとは言えなくなる。 しかしながら、より一般的に広告の影響を考慮すると、残念ながらはっきりとした答えは得られない。</p>
<p>タバコと健康 安全なタバコ</p>	<p>タバコ産業は、単に健康志向の宣伝が、ライバルの製品に対抗して自社製品を売り込むのに効果的な方法だと発見しただけ。人々の健康への関心をマーケティング・キャンペーンの中心に据えることによって、タバコ会社にはシガレットのデザインを改善する強力な利潤インセンティブが与えられた。全体としての結果は有益なものだった。消費者はより情報を与えられ、よりタバコと健康の問題に関心を持って注意深くなり、より安全なタバコのより多くのバラエティから製品を選ぶことができるようになった。</p>	<p>タバコ会社は、喫煙の危険について、何十年にもわたって意図的に人々をミスリードし、欺き、惑わせてきた。 タバコ研究評議会(CTR)は、偽情報の大衆キャンペーンを行うためのウソの最前線となってきた。 何十年もの間、タバコ会社は、彼らの製品は有害ではなく、人々の健康を守ることができ、果てはより健康的な生活を促すとまで説得するために、何十億ドルも投じてきた。 タバコ会社は、「安全な」シガレットといったものがあるかのように人々を信じ込ませ、欺いていた。もちろん、そんなものはない。</p>	<p>結局のところ、消費者行動のこの側面に関する核心をとらえているのは、「需要の価格弾力性」である。</p>
<p>未成年の若者にむけたマーケティング活動</p>	<p>下位レベルでのマーケティングにこだわっている。タバコ会社の CEO たちは、彼らの会社が未成年の若者にむけたマーケティング活動に従事したことを、宣誓証言で否定してきた。</p>	<p>若者向けマーケティング・レポートは、下位レベルの従業員によってつくられた文書ではなく、企業の高レベルの職員の承認によってつくられた文書。また彼らの拒否証言は偽証であることが暴露された。</p>	

<p>タールとニコチン</p>	<p>根拠のない非難。製品内のタールとニコチンに発散的な傾向があると主張した FDA のケスラー理事の図表を、彼らは再現しようとしたが、失敗した。</p> <p>バイアスのかかった見解のために、サロキン判事は第 3 区巡回控訴裁判所での訴訟から外されることになった。</p>	<p>マーケティングやパッケージ・ラベルでは、より低レベルのタールを消費者に約束していたが、タバコ会社は製品をピリッとさせ、消費者の依存症を深刻化させるために、製品に含まれるニコチンの量をこっそりと増やしてきた。</p> <p>タバコ会社が、既存の火力乾燥したタバコよりも多くのニコチンを運ぶことのできる遺伝子組み換えタバコを開発するための研究を行ってきた。</p> <p>サロキン判事は、企業に対する法的判断において「タバコ産業は隠蔽と虚報の王者でありうる」と書いた。</p>	
<p>タバコにおける需要の価格弾力性</p>	<p>需要は、価格の変化よりも、消費者の反応があらわれるより長期の期間において変化するもの。</p> <p>シガレットの長期的な需要の価格弾力性について ゲイリー・ベッカー教授； -0.73 から-0.79 の間 議会調査部による研究； -1.2</p>		<p>シガレットの需要は、非弾力的。</p> <p>その推定は過大ではないかと思う。</p>

<p>ティーン・エージャーの喫煙</p>	<p>政府であれ、タバコ産業であれ、また他の誰であれ、若者の社会的行動をコントロールできると想定するのはナイーブだと思う。ティーン・エージャーには、喫煙が有害だとわかればわかるほどいっそうアピールしてしまう。</p>	<p>喫煙者の80パーセントが18歳以前にこの習慣を始めていることを思えば、ティーン・エージャーの喫煙を少しでも減らすことの利益は、長い目で見ればおおいに重要。</p>	<p>もし、来るべき10年間にティーン・エージャーの喫煙を60パーセント減らすという大統領の目標が達成されるべきとすれば、シガレット価格は大幅に引き上げられねばならないだろう。</p>
<p>自由</p>	<p>ここは、人々が所得をどう支出するかを自由に選ぶことができ、また自ら好むようにそうすることのできる自由企業経済である。</p>	<p>タバコ会社とその扇動家は、いつも自分たちの主張を人々に対する「選択の自由」の訴えでくるむ。しかし、もしもタバコが依存性のものならば、喫煙者は真に選択の自由を持っているのか？それとも彼らは制御できない悪徳の奴隷なのではないか？</p>	

(作成：釜石 亮)